

完了後の評価個表

整理番号	9 - 1
------	-------

事業名	森林居住環境整備事業	都道府県	香川県
地区名	ことなみさいた 琴南財田地区	事業実施主体	香川県
関係市町村	まんのう町(旧琴南町、旧満濃町、 旧仲南町)、三豊市(旧財田町)	管理主体	まんのう町、三豊市
事業実施期間	H14 ~ H17(4年間)	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	<p>位置等 当地区は、香川県の南西部で、南は徳島県と県境をなす讃岐山脈の中腹に位置し、東は国道438号線と西は国道32号線に囲まれたまんのう町、三豊市にまたがる比較的急峻な地形の森林地帯である。</p> <p>森林の状況 当地区の民有林の森林面積は2,506ha、そのうち人工林が1,110haで44%を占めており、間伐等の森林整備が必要となる 齢級から 齢級の森林が474haで約43%を占めている。また、地区内の森林のうち、水源涵養保安林に959ha、土砂流出防備保安林に548haが指定されており、約92%が水土保全林に区分されている。このため、森林の持つ公益的機能を高度に発揮させるための適正な森林整備の実施が期待されている。</p> <p>当地区を整備する目的・意義 当地区においてはこれまでに約1,110haの人工林が造成され、森林蓄積は着実に増加しているものの、その多くは保育・間伐等が必要な段階にある。森林所有者等の森林整備に対する意欲の低下が懸念される中で、森林の有する公益的機能の高度発揮に対する県民の期待が高まっていたところである。</p> <p>また、当地域には森林整備を効率的に実施するための根幹となる林道等の路網が未整備であったことから、森林施業の遅れが目立っていた。</p> <p>このため、森林施業地への到達時間の短縮を図り、労働力や資材の効率的な移動等により林業労働の軽減及び森林施業コストの低減を図ることにより、森林整備を促進することを目的としてまんのう町琴南地区と三豊市財田地区を連絡する線形で林道を整備することとした。</p> <p>(事業概要) 森林基幹道整備 琴南財田線 車道幅員 4.0m 開設延長 4,165m 利用区域面積 2,783ha</p> <p>総事業費 1,406,274千円 (当初の総事業費 2,450,000千円)</p>
----------	---

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平成23年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 平成17年に全体計画を見直し、開設延長を縮減した。</p> <table border="0"> <tr> <td>総便益(B)</td> <td>2,125,937千円</td> <td>(事業採択時</td> <td>2,407,433千円)</td> </tr> <tr> <td>総費用(C)</td> <td>1,971,949千円</td> <td>(事業採択時</td> <td>2,177,148千円)</td> </tr> <tr> <td>分析結果(B/C)</td> <td>1.08</td> <td>(事業採択時</td> <td>1.11)</td> </tr> </table>	総便益(B)	2,125,937千円	(事業採択時	2,407,433千円)	総費用(C)	1,971,949千円	(事業採択時	2,177,148千円)	分析結果(B/C)	1.08	(事業採択時	1.11)
総便益(B)	2,125,937千円	(事業採択時	2,407,433千円)										
総費用(C)	1,971,949千円	(事業採択時	2,177,148千円)										
分析結果(B/C)	1.08	(事業採択時	1.11)										

事業効果の発現状況	<p>林道開設により、森林施業地までの到達時間及び作業コストの低減が図られ、事業着手前5年間の森林整備延べ面積約116haに対し、事業完了後の5年間は約148ha(1.3倍)に増加した。現在も関連区間の林道が整備されており、利用区域内における搬出間伐に向けた取り組みが進められているところである。</p>
-----------	--

事業により整備された施設の管理状況	<p>当事業により開設された林道は、まんのう町及び三豊市が定めた林道管理条例等に基づき管理され、年数回の草刈や側溝掃除等が行われており、維持管理状況は良好である。</p>
-------------------	---

事業実施による環境の変化	<p>林道開設により、森林施業地までの到達時間の短縮等により、林業労働条件の改善が図られ、植栽、除伐・間伐等が進み、森林所有者の森林施業の実施に対する意欲が向上してきている。</p> <p>一方、林道開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少などの影響は見受けられない。</p>
--------------	---

社会経済情勢の変化	<p>林道の整備により、作業コストの低減が図られ、間伐材の搬出が行われるようになった。平成23年9月に、県内で初めて県産木材を中心に加工する香川木材加工センターが本格稼働し、木材の受け入れ体制が整ったことから、これからの木材供給源としての期待が高まっている。</p> <p>森林整備が行われる一方、山菜採取やハイキング等に森林を利用する人々が増加しており、森林に対する理解が深まりつつある。</p>
-----------	---

<p>今後の課題等</p>	<p>森林施業の実施に対する意欲が徐々に増進されてきているが、木材価格の低迷等により間伐等の実施状況が十分とは言えない状況である。今後、さらなる路網整備や施業の集約化、高性能林業機械の導入等による効率化、低コスト化と、森林所有者に対するより一層の普及啓発を行い、森林施業の積極的な実施を図る必要がある。</p> <p>・ 地元の意見： 森林基幹道整備については、平成17年度に、県の財政状況等により路線の全体計画を見直し、森林管理道として路線を分割したうえで、より効率的に路網整備の効果が発揮できるよう、幅員の見直しによるコスト縮減とあわせて、優先して整備する区間を選定し、重点的に整備を行っている。当路線に対する地元の期待は高く、関連区間の早期完成に向けて地元関係者と連携して事業を推進していくとともに、森林所有者にさらに森林整備の実施に意欲を持ってもらえるよう働きかけを行っていく。(香川県)</p> <p>林道の整備により、森林所有者や住民の森林整備に対する認識が高まり、その重要性に関心を持つ人が増えていることから、林道利用者、地元自治会等と連携を図り、適切に維持管理を行うとともに、森林所有者への働きかけを積極的に行い、森林整備の推進に努めている。(まんのう町)</p> <p>林道の整備により、森林を訪れる住民も増えており、今後も森林の持つ公益的機能の重要性を広く周知するとともに、森林所有者に対し、森林整備を積極的に推進するよう働きかけている。(三豊市)</p> <p>林道整備により、間伐材の搬出が出来るようになった。これからも安定的に木材を供給するために、一層施業コストの低減を図り、森林整備に取り組んでいきたい。(森林組合)</p>
<p>評価結果</p>	<p>・ 必要性： 森林整備を効率的に行う基盤となる路網の整備が求められていることから、事業の必要性が認められる。</p> <p>・ 効率性： 現地に応じた工種・工法が採用されるとともに、事業実施に際してもコンクリート擁壁に代え現地発生土砂を活用できる補強土擁壁を採用するなどのコスト縮減に努め、総事業費の削減が図られたことから、事業の効率性が認められる。</p> <p>・ 有効性： 林道整備により、森林へのアクセスが容易になり、これまで行われていなかった間伐材の搬出がおこなわれるなど木材生産・森林整備が促進されてきており、今後も一層の効果の発現が見込まれ、事業の有効性が認められる。</p>

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林居住環境整備事業

都道府県名: 香川県

地域(地区)名: ^{コトナミ サイト} 琴南財田地区

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
木材生産便益	木材生産経費縮減便益	13,733	
	木材生産確保・増進便益	611,296	
森林整備経費縮減便益	造林作業経費縮減便益	670,430	
	治山経費縮減便益	90,881	
	森林管理等経費縮減便益	2,355	
	森林整備促進便益	661,915	
森林の総合利用便益	ふれあい機会創出便益	10,687	
災害等軽減便益	防火帯便益	51,146	
	災害復旧経費縮減便益	13,494	
総 便 益 (B)		2,125,937	
総 費 用 (C)		1,971,949	
費用便益比	$B \div C = \frac{2,125,937}{1,971,949} = 1.08$		

